



あき 秋の特別展

「べらぼう」に面白い 印刷展

令和7年10月11日(土)～12月7日(日)

先人たちは長い年月と工夫を重ねて、印刷技術を発展させてきました。江戸時代は出版業が確立し、学問・教育・娯楽など豊かな文化が広がる基盤となりました。その後も様々な印刷技術が登場し進化を続けています。

本展では江戸時代を中心に印刷や出版文化の歴史と魅力を紹介します。また、小学6年生の教科書に登場する浮世絵や解体新書なども展示しています。多くの皆様のお越しをお待ちしております。



葛屋重三郎 青楼美人合姿 鏡
(九州大学中央図書館所蔵)



歌川広重 東海道五拾三次之内 日本橋
(福岡市博物館所蔵)



ギャラリートークや
講演会もあるよ。
ホームページで
確認してね！

ミュージアムのタネ



きたきゅうしゅうし 北九州市の伝統的な織物「小倉織」

「伝統的工芸品」とは、昔から伝わる技術や材料を用いて、主に手作業によって日常生活用に作られるもので、経済産業大臣の指定を受けた工芸品のことをいいます。加えて、福岡県では郷土色が豊かで、技術・技法が50年以上の歴史があるなどの一定の歴史を有する工芸品・民芸品を、福岡県知事指定の「特産民芸工芸品」とし、現在37品目が指定されており、北九州市では、「孫次風」と「小倉織」が指定されています。

「小倉織」は江戸時代、豊前小倉地域の名産とされた綿織物で、たくさんのたて糸を使い、ぎゅっとつまった丈夫な布で、古くは徳川家康が鷹狩の際に小倉織の羽織を着ていたという記録があります。日本で木綿の栽培が本格的に始まった江戸時代の初め頃は、小倉織は高級品でしたが、木綿の普及と織物の技術の発展により広く普及し、たくさんの人が小倉織の袴や帯を使いました。

ところが、明治時代以降、着物から洋服へと人々の服装が変化し、徐々に小倉織は作られなくなり、小倉織のことを知る人もほとんどいなくなっていました。今から約40年前に北九州市に住む染織家の築城則子さんが小倉織を復元したのをきっかけに、今ではたくさんの人が小倉織を作っています。また、小倉織が再びなくならないように、街の人びとに小倉織を知っていただく活動をしています。博物館でも、小倉織の展示や講座を開催するとともに、ボランティアによる糸紡ぎやはた織の実演を不定期でおこなっています。皆さんもぜひ、小倉織を見に博物館へお越しください。



小倉織の材料であるワタを文化学習園で栽培中



小倉織の実演コーナー(常設展3階)

歴史課学芸員 上野 晶子

先生、ちょっと聞いて！

博物館とオンライン授業をしませんか？

博物館では、自然史・歴史の展示物を活用して、学校の授業をワンポイントで支援する「ちょこっと博物館」(オンライン授業)を行っています。

- 内容 授業内容に合わせて10～15分程度のオンライン授業
※ 利用する展示物の例 (昔の道具、歴史標本、岩石・鉱物・化石など)
- 接続形態 学校側がホストになり、博物館を招待
- 問い合わせ・申込み まずはお電話ください。(担当 ミュージアムティーチャー)

学習にピッタリの展示物がたくさん！

